

パズルのように組み替え自在! 1/9スケールの新感覚サイクルモデル登場

ここ数年、日本でもブームの兆しを見せているピストバイクは、競輪で使用されるトラックレーサーを原型とするいわゆるブレーキのない自転車だ。ニューヨークが発祥とされるメッセンジャー(自転車便)の利用によりストリートシーンで話題となったピストバイクは、何時しかストリートカルチャーから生まれたファッション・アイテムのひとつとして、日本でも若者を中心に人気を集めているようだ。ここに紹介するサイクルモデルは、そんな今時の自転車カルチャーを反映した1/9スケール(全長約180mm)の組み立て式サイクルモデルで、「PEDAL MAFIA」と「YAMATO」のコラボレーションにより実現した新感覚ビルドアップモデルである。ちなみに「PEDAL MAFIA」とは、自転車を通じて自転車カルチャー周辺の様々な情報を配信している総合ポータルサイトで、オリジナリティ溢れるコンテンツは世界中で話題を呼んでいる。

カスタマイズによる色遊びや個性的なバイクの創造、パズル感覚で組み上げる面白さを融合させた1/9スケールの自転車モデル「PEDAL ID」。商品プロデューサーは「PEDAL MAFIA」、製造・販売を手がけるのはマクロスやボトムズといった変形ロボットフィギュアメーカーで知られる「株式会社やまと」が担当。



株式会社やまと
Tel.03-3526-6080 <http://www.yamato-toys.com>

■プレゼント—この「PEDAL ID」のベーシックセットを5名の読者にプレゼント。希望される方は巻末の読者プレゼントの応募要項をご覧の上、宛先を「モデル・カーズ156号/PEDAL IDプレゼント」係とし、住所・氏名・本誌に対するご意見を記入の上ご応募を。

Modelcars EYES

心ときめく春にピッタリの ホビー系ムックが一挙登場!



①「バス・グラフィック Vol.2」定価：1,200(税込) 3月31日(火)発売 ②「トミカ リミテッド ヴィンテージ 大全」定価：2,000(税込) 3月31日(火)発売 ③「街道レーサー・モデリング」定価：1,200(税込) 3月28日(土)発売

桜の見ごろを迎える3月下旬に、弊社から発売となる3冊のホビー系ムックをご紹介します。注目の1冊目は、昨年12月に創刊した「バス・グラフィック」のVol.2で、今回も実車のバス1台1台をじっくり捉え、大判写真を使ってグラフィカルに誌面展開していく。Vol.2では、巻頭特集「ありがとう僕らのエアロスター」をはじめ「京都バス5E乗車ルポ&ディテールガイド」、「素晴らしきバスの風景」、「1980年代 京急バス・モノコック車活躍末期の頃」等々、今回も様々な切り口においてバスの魅力を紹介します。定価¥1,200(税込)。2冊目は、数あるミニカー・ブランドの中でも高い人気を誇るトミカ リミテッド ヴィンテージ(T.L.V.)を採り上げた「トミカ リミテッド ヴィンテージ 大全」。T.L.V.シリーズの全貌を徹底的に解説したT.L.V.初のオフィシャルブックで、他では決して見

ることのできない貴重な実車写真は必見だ。さらにメーカーインタビューや開発の裏側といった本邦初公開の記事も収録しているので、T.L.V.ファンならずとも納得の内容といえる。定価¥2,000(税込)。ラストを飾る3冊目は、巻で話題の街道レーサーを題材にした模型誌「街道レーサー・モデリング」。今回のムックではローレルとケンメリ、マークII兄弟をフィーチャーし、泣く子も黙る作例の数々を模型誌らしく製作解説を交えて紹介していく。街道レーサーというニッチなジャンルではあるが、模型ならではの魅力を余すところなく収録する同ムックを通して、模型工作趣味の楽しさを再認識して欲しい。定価¥1,200(税込)

弊社営業部 Tel.03-5723-6013(土・日・祝日を除く10:00~18:30)

“Z使い”の柳田選手も参戦! 第二回GCスロットカー レースレポート

去る2月21日(土)、世田谷区中町にあるスロットカーサーキット、レーシング・パラダイス世田谷にて第二回「往年のGCドライバーによるスロットカーレース」が開催された。このイベントは、'71年から'79年まで2座席マシンで争われた富士グランチャン車輛を1/24スロットカーで再現し、シリーズ選手権を行っているクラブ M.F.Cが企画したもので、今年も往年のドライバー達が集まった。

レースは9ヒート制、総合ラップ数で争われた。今年は長谷見 昌弘氏と写真家の原 富治雄氏が、共に88ラップを記録する大接戦となり、予選タイムで原選手を0.122秒上回った長谷見選手がウィナーとなった。また、元日産ワークスドライバーとし



①ローラ、シグマ、シェブロン勢の後ろで、異様な存在感を放つ240ZG。②柳田選手に用意されたマシンは、クラブM.F.C.特製の1972年グランチャン仕様のフェアレディ240ZG。同年の第3戦富士では、雨の中総合優勝を飾ったマシンが蘇った。撮影時はすでに相当数の周回(&クラッシュ)をこなしていたため、すでにボロボロ……。



④参加ドライバーは、津々見 友彦、高橋 晴邦、長谷見 昌弘、原 富治雄(写真家)、寺田 陽次郎、福士 克二(当時FISCO-GC事務局担当)、柳田 春人、藤島 知子(メディア代表)、鮎子田 寛、の計9名(敬称略)。⑤今年の上位トップ3。左から津々見(3位)、長谷見(1位)、原(2位)選手の順。ちなみに第一回ウィナーの寺田選手は5位と奮わなかった。

て活躍した“Zの柳田”こと柳田 春人氏も今回初参加し、総合6位と大健闘をみせた。

会場は終始なごやかな雰囲気に包まれ、各選手ともスロットカーを心ゆくまで楽しんでいた姿が実に印象的であった。

© M.F.C.(Modelcar Racing Grand Champion Fan Club)
<http://www.diana.dti.ne.jp/slotcar/>